



年頭のごあいさつ

熊本県国民健康保険団体連合会
理事長 大西 一史



令和3年の新春を迎えるにあたり、謹んで年頭のごあいさつを申し上げます。

保険者の皆さまには、日頃から本会の事業運営につきまして格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大というこれまで経験のない危機に直面しました。改めまして、医療従事者の皆様をはじめ感染症対策の最前線で多大なるご尽力をいただいている方々に心から御礼申し上げます。

本会といたしましても、熊本県をはじめ関係機関と連携し、新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金事業等に係る医療従事者等への慰労金、感染拡大防止等のための支援金の支給事務に取り組んでまいりました。

一方で、本県においては、7月の記録的豪雨により県南部を中心に甚大な被害がもたらされ、多くの尊い命や財産が失われることとなりました。ここに犠牲になられました皆さまに深く哀悼の意を表しますとともに、被災された皆様の一日も早い復旧・復興をお祈りいたします。

さて、近年の国保を取り巻く環境は、急速な少子高齢化の進展とともに、加入者数が減少する一方で、医療の高度化による医療費の増加や構造的な問題など、多くの課題に直面しています。

このような中、政府においては、すべての世代が公平に支え合う「全世代型社会保障」の実現に向けて、「給付は高齢者中心、負担は現役世代中心」という社会保障の構造の見直しを進め、昨年12月に最終報告をまとめました。最終報告では、「医療」と「少子化対策」の2つを柱とした取組が盛り込まれ、75歳以上の医療費窓口負担の2割への引き上げを令和4年度後半から実施することとされ、政府はこの最終報告を閣議決定し、今国会に関連法案を提出することとなっています。

本会といたしましては、このような国の動きを的確に捉えながら、社会情勢の変化や保険者ニーズを踏まえ、基幹業務である審査支払業務の高度化・効率化を図ることはもとより、保険者による保健事業の展開がより効率的かつ効果的に行われるよう支援に努めてまいります。さらには、保険者事務の効率化を図るための各種共同事業についても、市町村事務処理標準システム共同利用クラウドなどの新たな業務にも積極的に取り組み、保険者の負託に応えてまいります。

結びに、この一年が皆様方にとりまして、素晴らしい年となりますことを祈念申し上げまして、新年のごあいさつといたします。